

令和4年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和5年2月8日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方針 次年度への課題 （学校関係者評価を受けて）
基本的な知識・技能が確実に定着し、思考力・表現力が豊かな子の育成	基礎・基本的な知識・技能の習得	A	A	○朝の活動では課題の見直し・反復練習・お話タイムや読書活動などが実施されており、基礎的な知識・技能の育成が図られている。 ○個の学びを広げ深めるため、個の考えをもち、ペア、グループ、クラス全体での話し合いの時間を設けたり、授業案に関わり合いのための支援を明記したりして授業に取り組んだ。子どもたちは他者の考えのよさに気づき、自分の考えを再構築していく姿が見られた。 ○総合的な学習の時間を中心に、校区の課題解決に向け、粘り強く探求することができた。	A	○デジタル教科書やタブレット端末等のICT機器を積極的に活用したり、学習形態を工夫したりしていることで、子どもたちが興味をもって授業に取り組んでいる。 ○今後さらに地域が協力していくためにも授業での取り組みの様子を情報発信してほしい。授業に活用できる地域の人材を協力したい。	○他者との関わりを通して、考えを広め、深めることができるよう、対話的な学びを促す。話し方・聴き方等の育てたい力を明記したりお話タイム系統表を作成したり、各教科等でも問題解決的な学習過程を重視したりして言語活動の充実を図る。 ○地域のひとつ、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組めるよう学習環境を整える。教科等で活用できるよう人材バンクを作成・活用し、問題解決的な学習を促す。
	思考力・表現力の育成	A					
	学習意欲の喚起	B					
豊かな体験活動を通し、教師や友達との人間関係を深める子の育成	心の教育の充実	B	A	○常任委員会のあいさつ運動など、子ども主体の活動の中で、あいさつができる子が増えきたが、積極的なあいさつや地域のかたへのあいさつには課題が残る。自分に自信をもたせること、校区のかたがたが見ていることを教員が伝え、指導していくことが必要である。 ○本校の伝統的な異学年交流（ふれあい班）での様々な活動を通して、学年に応じた行動をとることができ、子どもたちの良好な関係づくりに効果をあげている。	A	○校内でのあいさつは向上してきているようだが、登下校時のあいさつはまだ十分でない。学校だけでなく、家庭や地域を巻き込んだ取り組み方法を考えてい。	○豊かな体験や心の教育を行うため、ふれあい班やペア学年等、異学年交流の拡充を図る。 ○校区健全育成会のあいさつ宣言や常任委員会が中心となったあいさつ運動等を計画的に行うことで主体的にあいさつができる子の育成を図る。
	コミュニケーション能力の育成	A					
体力の向上・心身の健康の保持増進に努める子の育成	体力づくりの推進	A	A	○体育の授業の始めに行っている向山っ子体操で体を動かす楽しさや体力向上を図っている。 ○定期的に生活チェックを行うことにより、規則正しい生活習慣の確立を図ることができた。特に学校保健委員会では、本校の健康課題である姿勢を取り上げ、協議会や講師による指導により、よい姿勢を意識できるようになった。	A	○なわとびをはじめ持久走等、体力向上の取り組みが行われていることはとてもよい。 ○学校外での体力向上の取り組みもあるとよい。	○今年度より取り組んでいる向山っ子体操のレベルを上げること、さらに体力向上を図る。 ○家庭と連携を図りながら、基本的な生活習慣の育成を図る。また、今年度取り組んだ姿勢指導の継続と拡充を図る。
	健康づくりに関する取り組みの充実	A					
安全安心な教育活動の推進	安全教育と防災教育の推進	A	A	○安全・防災関連行事が計画的に実施されている。計画も綿密に練られており、児童の意識・技能の向上につながっている。	A	○安全に関する取り組みを地域が見る機会があるとよい。防災教育について、校区を巻き込んだ取り組みを期待したい。	○有事の際に、適切に判断し行動できるよう、様々な場面を想定した訓練を実施する。 ○危険を予測し行動できるよう、安全教育的な手引きを活用し、指導を行う。
家庭や地域との連携の推進	生き方教育やふれあい活動の推進	B	A	○総合的な学習の時間において、校区の調べ学習で、ゲストティーチャーをお願いした。図書資料で調べるだけでなく、子どもたちの疑問等に地域の「ひと」からの声で語っていただき、充実した学習を行うことができた。 ○図書ボランティアや安全立ち番のかたがたとの連携が確実に行われている。	B	○コロナ禍ではあるが行事の開催方法を工夫している。保護者の参観と同じように、地域の参観機会があるとよい。	○今後もHP等を活用し、子どもの頑張りや教師の取り組みを家庭や地域に発信していく。 ○授業等で、地域の「ひと・もの・こと」が活用できるよう、人材バンクを作成する。地域の教育力を活用し、学校での学びを地域に還元する等、双方向な学びを展開していく。
	学校からの情報発信	A					
	ボランティア活動の充実	A					
教職員評価制度を活用し、教職員の資質向上及び業務改善	教師の授業力の向上	A	B	○積極的な授業実践が行われている。今年度より授業の見所や協議会の視点を示したことで、教師の授業力向上につながった。しかし、板書や支援、切り返し等に課題が残るので、現職研修の内容を充実させ研修を積みたい。 ○個人裁量日は計画的に位置づけられたが、なかなか帰れない現状がある。	A	○オンライン授業を実際に見ることができた。タブレット端末などの機器を、全ての教師が確実に扱えるよう研修に取り組んでほしい。 ○子どもたちの笑顔のためにも教師が元気でいてほしい。そのためにも業務の効率化を図り、働き方改革を推進してほしい。	○校務の効率化、多忙化解消に向けて、個人裁量日や定時退校日の設定、行事の精選・分散、会議の効率化等を実施する。 ○授業力の向上に向け、今年度の課題である関わり合いや道徳の評価、ICTについて、研修を実施する。さらに、OJTとして気軽に授業を見合える体制を整備する。
	主体的な研修の推進	B					
	教職員の業務改善の推進	B					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】